

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きに足踏み感がみられる。
先行きについては慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは▲48.1と、前期比で6.4ポイント増加し、2期ぶりに改善した。業種別では、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。
- 景況感の先行きD Iは▲20.4と、前回調査比で0.8ポイント増加し、2期ぶりに改善した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は19.5%で、2期ぶりに増加した。
- 来期については、売上げD I及び採算D Iは当期D Iより改善し、資金繰りD Iは当期D Iより悪化する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和4年1～3月期、「当期」：令和4年4～6月期、「来期(先行き)」：令和4年7～9月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲48.1となり、2期ぶりに改善した。前期比で6.4ポイント増加し、前年同期比では9.7ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲49.6)、非製造業(▲47.1)ともに2期ぶりに改善した。

<景況感D Iの推移>

| | 当 期 (R4.4-6) | 前 期 (R4.1-3) | 前年同期 (R3.4-6) |
|-------|-----------------|-----------------|------------------|
| 全 体 | ▲48.1 | ▲54.5 | ▲57.8 |
| 製 造 業 | ▲49.6 | ▲51.6 | ▲54.9 |
| 非製造業 | ▲47.1 | ▲56.7 | ▲60.0 |

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.2%（前回調査(R4.1-3月)比▲1.0）、「悪い方向に向かう」とみる企業は27.6%（前回調査比▲1.7）だった。

先行きD Iは▲20.4（前回調査比+0.8）と、2期ぶりに改善した。

<来期の見通し>

| | 良い方向に向かう | 悪い方向に向かう | 先行きD I (R4.7-9) |
|-------|----------|----------|--------------------|
| 全 体 | 7.2% | 27.6% | ▲20.4 |
| 製 造 業 | 6.5% | 28.5% | ▲22.1 |
| 非製造業 | 7.7% | 26.9% | ▲19.2 |

2 売上げについて

売上げD Iは▲20.3（前期比+16.7）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

| | 当 期 (R4. 4-6) | 前 期 (R4. 1-3) | 前年同期 (R3. 4-6) | 来期見通し (R4. 7-9) |
|-------|------------------|------------------|-------------------|--------------------|
| 全 体 | ▲20.3 | ▲37.0 | ▲31.6 | ▲15.3 |
| 製 造 業 | ▲20.8 | ▲33.3 | ▲23.2 | ▲15.4 |
| 非製造業 | ▲19.9 | ▲39.8 | ▲38.0 | ▲15.2 |

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲21.5（前期比+10.2）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業は当期の資金繰りD Iより改善し、非製造業は当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

| | 当 期 (R4. 4-6) | 前 期 (R4. 1-3) | 前年同期 (R3. 4-6) | 来期見通し (R4. 7-9) |
|-------|------------------|------------------|-------------------|--------------------|
| 全 体 | ▲21.5 | ▲31.7 | ▲25.8 | ▲21.9 |
| 製 造 業 | ▲24.8 | ▲29.7 | ▲21.2 | ▲23.6 |
| 非製造業 | ▲19.1 | ▲33.2 | ▲29.3 | ▲20.6 |

4 採算について

採算D Iは▲35.7（前期比+6.9）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業は2期連続で悪化し、非製造業は2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

| | 当 期 (R4. 4-6) | 前 期 (R4. 1-3) | 前年同期 (R3. 4-6) | 来期見通し (R4. 7-9) |
|-------|------------------|------------------|-------------------|--------------------|
| 全 体 | ▲35.7 | ▲42.6 | ▲36.1 | ▲29.4 |
| 製 造 業 | ▲40.2 | ▲39.2 | ▲29.5 | ▲31.6 |
| 非製造業 | ▲32.4 | ▲45.2 | ▲41.2 | ▲27.7 |

5 設備投資について

実施率は19.5%となり、2期ぶりに増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

| | 当 期 (R4. 4-6) | 前 期 (R4. 1-3) | 前年同期 (R3. 4-6) | 来期見通し (R4. 7-9) |
|-------|------------------|------------------|-------------------|--------------------|
| 全 体 | 19.5% | 19.3% | 19.3% | 17.3% |
| 製 造 業 | 22.6% | 22.1% | 22.8% | 22.5% |
| 非製造業 | 17.4% | 17.2% | 16.6% | 13.7% |

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・半導体製造装置向けの需要が継続しており、好況である。
- （輸送用機械器具）・自動車メーカーの減産が続いており、不況である。
- （プラスチック製品）・医療機器、食品加工機器関連の需要が安定しており、景況感は普通である。
- （食料品製造）・まん延防止等重点措置が解除され、巣籠もり需要も落ち着いており、普通である。
- （百貨店）・昨年に比べれば回復の兆しはあるものの、コロナ禍前ほどではない。
- （商店街）・観光客の来街者が増えており、好況である。
- （情報サービス業）・原材料費高騰の影響で経費削減の一環として、情報化投資の抑制がみられる。
- （建設業）・民間工事は減少傾向にあるが、公共工事が安定しており、景況感は普通である。

【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・5G関連の新規事業が軌道に乗り、前年同期比で売上高が増加した。
- （プラスチック製品）・原材料費高騰の影響で採算性は悪くなった。
- （食料品製造）・電気代、重油の費用などが高騰しており、採算性は悪くなった。
- （印刷業）・価格転嫁が進まず、採算性は悪くなった。
- （スーパー）・冷凍食品の需要が高まった影響で惣菜の販売は落ちている。
- （情報サービス業）・デジタル化の需要が落ち着いており、売上高はほとんど変わらない。

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・足元の受注は一般産業機械向けを中心に落ちており、どちらともいえない。
- （輸送用機械器具）・自動車の減産が続いており、どちらともいえない。
- （食料品製造）・受注は安定しているが、小麦やエネルギー価格高騰の影響が大きく、どちらともいえない。
- （銑鉄鋳物）・鋼材価格高騰が続いており、悪い方向に向かうとみている。
- （百貨店）・海外情勢や感染症の収束次第であり、どちらともいえない。
- （旅行業）・感染症の収束次第だが、良い方向に向かうとみられる。
- （建設業）・資材価格や不動産価格の高騰で買い控えの動きも予想され、どちらともいえない。